

海洋工事の多くを学べる港湾埋立 女性職員を受け入れる現場と 変わらず内在する課題 中央卸売市場埋立造成等工事



埋立工事の現場全景。手前の埋立完了部分が海拔約2m。この後海拔3mまで土砂を積み重ねていく。



創意工夫に富む現場の取り組みやマネジメントの最前線を追う!!

一昔前に比べれば、建設現場の女性労働環境は大きく進歩した。男性本位だった現場は、女性の意見も取り入れ今や様変わりした。しかし、「働きやすくなる」ことですべてが解決するわけでもない。若手女性職員が働く現場で見えてきたものとは。

地盤改良から埋立まで 「海の工事のデパート」

一九三二年の開場から約九〇年、神戸市民の台所を支えてきた神戸市中央卸売市場の一角に、今回の現場はある。

市場は施設の老朽化を受け、約一五年前から更新工事が行われているが、その一環として一部の敷地を拡張する必要がある。小規模ながら港を埋め立てることとなった。施工を担当する東洋建設(株)中央卸売市場埋立造成等工事の水橋信隆所長に工事の概要を伺った。

「もともとは幹線道路(市道)で市場の敷地が分断されていたのですが、これを一方の側に集約しようというのがこの工事の目的です。面積は二畝ほどで、神戸沖堤防や大阪港の新島建設工事に比べたら

いうことになる。

「私が所長としてここに配属される前に、会社で管理職向けに開催された『ダイバーシティ研修』を受講して、女性職員との接し方、周囲の理解の重要性などを学びました。東洋建設の職員四名のうち二名が女性ですが、私は性別に関係なく『若手』として捉えています。協力会社とのやり取りなど、上手に立ち回っていますよ」

水橋所長が「海の工事のデパート」と称したように、港湾土木の様々な局面を経験できるこの現場は、確かに若手職員にとって理想的な成長の場となるだろう。

規模は小さいですが、海底地盤改良からケーソンの製作と据付け、そして埋立まで、港湾工事の最初から最後までを一貫して行うことができます。そういう意味では、わりと希少な工事でしょうね」

取材当時、「進捗率八〇%」という敷地は海拔約二メートルまで埋め立てられ、雨水排水管の埋設などが進められていた。



東洋建設株式会社
中央卸売市場埋立造成等工事
監理技術者
所長

水橋 信隆 Nobutaka Mizuhashi

今年で入社三年目、この現場に赴任して二年目という森田美優さんに話を聞いた。

「私は大学で建築や土木を学んでいたわけではなく、とにかく海が好きだったので海洋学部に進みました。就職するにあたって、事務などのデスクワークよりもアウトドアで働きたいなと思い、海の現場に出られるということでこの会社に入社しました」

昨今の建設現場の例に漏れず、この現場でも男女別のトイレやその動線などには配慮が行き届いており、施設や働きやすさの点で不満はないという。

工事概要	中央卸売市場埋立造成等工事
工事名	兵庫県神戸市兵庫区中之島及び築地町地先
工事場所	事業担当部局: 神戸市経済観光局
発注者	中央卸売市場運営本部本場
	工事担当部局: 神戸市港湾局 工務課
施工者	東洋・寄神特定建設工事共同企業体
工期	2019年9月26日～2022年2月28日
工事内容	海上地盤改良工: 深層混合処理(合計899本)、 高圧噴射攪拌工(合計203本)など
	基礎工: 基礎捨石投入均し 5,460㎡
	本体工: ケーソン製作・据付 24函
	上部工: コンクリート打設 380㎡
	埋立工: 埋立土砂 94,390㎡



ケーソンで仕切られた部分が当現場の施工範囲(提供: 東洋建設株)

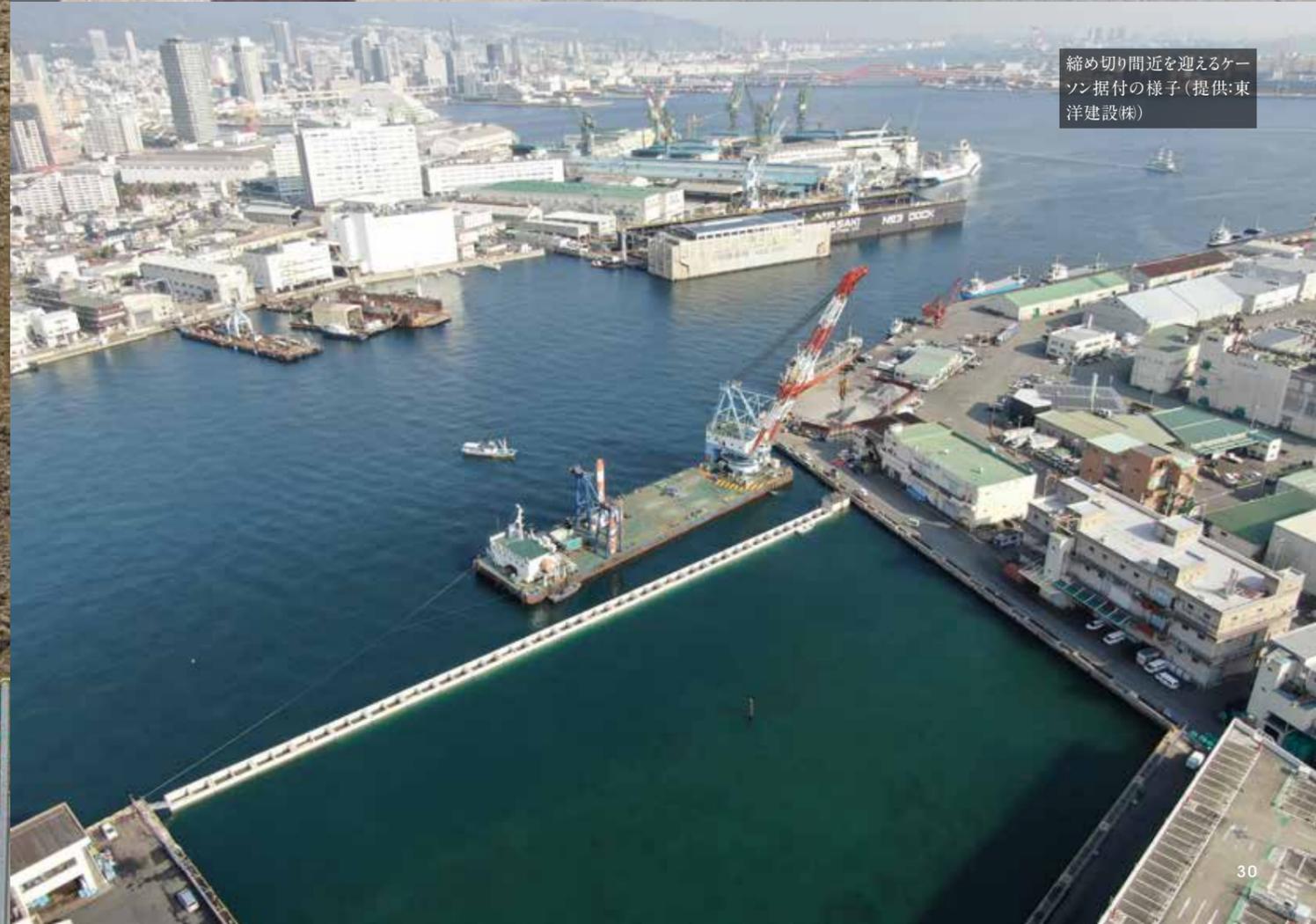
埋立部分の外周に並ぶケーソン。兵庫県西宮市鳴尾浜（なるおはま）の工場で製作し、台船でこの現場まで運んできた。



水橋所長とともにケーソン部の目地を検査する、1年目の渡辺麻衣さん。港湾土木の施工管理を勉強中だ。



締め切り間近を迎えるケーソン据付の様子（提供：東洋建設株）





上／現場事務所のある棟から埋立部分を見下ろす。右奥に見えるのが神戸市中央卸売市場。
右／協力会社の技能者とのコミュニケーション。水橋所長曰く「彼らは女性の言うことのほうがよく聞いてくれるのですよ(笑)」



東洋建設株式会社
中央卸売市場埋立造成等工事
技術者

森田 美優 Miyu Morita

が心配ではありませんね」
同社には産前・産後・育児休暇のほかに、結婚・育児などにより退職せざるを得ない職員が、その事情が解消した場合に再入社できる「カムバック制度」も整備。このように女性が長く活躍できる制度は整備されてきているが、キャリアプランを考へる際のロールモデルが少ないこともあり、女性職員がキャリア形成に不安を感じる局面はゼロにはならない。会社も環境整備がすべてではないことを強調した。

「不安を抱える女性たちの声にならない声があるのも現実です。それを拾い上げて、一つひとつ解決していく…。地道な取組みを続けることで、ワンランク上の労働環境を作り上げていくことが今後の課題だと思います」(人事部)



現場には3名の女性職員が常駐。設備面などでの不満はなく業務に集中できているという。

「女性の働きやすさ」言葉の裏に潜む課題

近年、東洋建設では女性職員の採用人数が増加傾向にある。同社人事部に事情を語っていただいた。

「ここ数年、全採用数の二〇%が女性総合職という比率になっています。女性が当たり前のように働ける会社を目指しているのです、その一つの成果でしょう」

同社では七年前から女性総合職を対象にしたキャリアアップ研修を実施。また現在は、水橋所長も講じた、女性職員を部下に持つ管理職向けのダイバーシティ研修も開講している。更に女性技術職員のワーキンググループを立ち上げるなど、管理職・職員それぞれが抱える悩みや課題点を共有し、解決するための活動を推進している。

「建設業界は全業種のなかでも女性進出がかなり遅かった業界なので、女性が長く快適に働くための課題を改めて抽出する機会を設けています。一口に総合職と言ってもいろいろな部署、いろいろな立場の女性に参加するので、研修などの機会は、



女性技術職によるワーキンググループ活動風景 (提供：東洋建設株)

そのような女性たちのネットワークを築いてもらう場にもなっていますね」

とはいえ、前出の森田さんは、ライフプランについて、一抹の不安を禁じ得ないという。

「女性はいつか結婚したり出産したり…ということもあると思うのですが、できれば仕事も続けたいという思いもあります。例えば、仕事への復帰を考えた時、スムーズに現場に戻れるかどうかかわからないという点

女性が活躍できる環境整備+α 業界だけでなく 社会で向き合う課題

Webサイト「WorkStyle Lab」で動く現場を見よう!!

建設業界の働き方改革を伝えるサイト「WorkStyle Lab」では、「現場イノベーション」と連動したコンテンツを随時掲載中です。取材先の更に詳しい取組みやこぼれ話など、誌面に載せきれなかった内容を動画などで紹介します。所長さんや副所長さんなどの想いを生の声で、また実際の工事現場の様子を臨場感あふれる動画でぜひご覧ください。たくさんアクセスお待ちしております。



WorkStyle Lab
<https://www.nikkenren.com/2days/workstylelab/>



【お詫びと訂正】

2021年9月号「現場イノベーション」P37掲載の工事概要におきまして、「最高高さ」の表記に誤りがございましたので、下記の通り訂正いたします。

(誤)最高高さ 15.90㎡

(正)最高高さ 15.90m

関係者および読者の皆様にご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。